

# TOKIWA

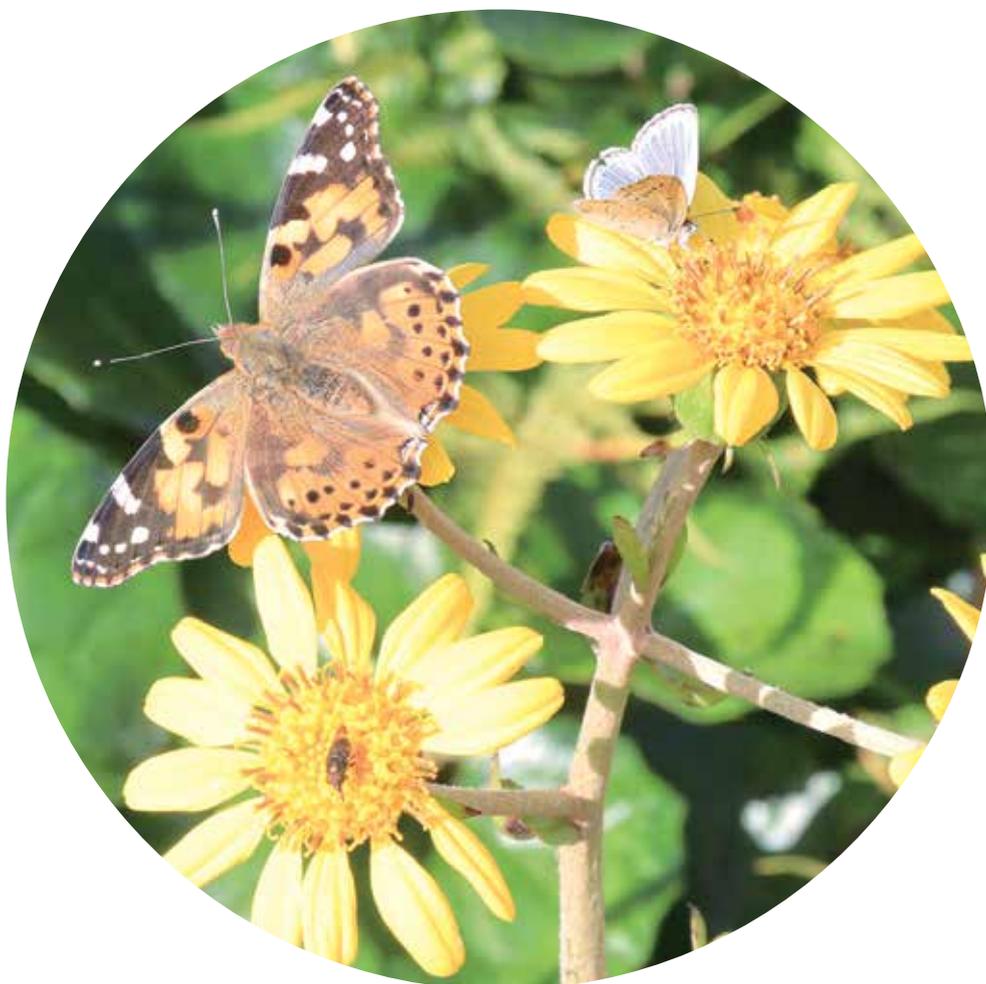
2024

WINTER

vol.214

INTERVIEW

グラフィックデザインの世界—「TOKIWA」のデザイナーに聞く



今回の広報誌「TOKIWA」冬号では、デザイン・プレス 向井 孝子様インタビューしました。向井様はときわ園のロゴマークや広報誌「TOKIWA」の制作等、幅広くときわ園のために尽力してくださっています。

### — 向井様のお仕事の内容を聞かせていただけますか？

グラフィックデザイナーは、雑誌、書籍の装丁、看板広告、ポスター、カタログ、商品パッケージ、ロゴなど、広告や宣伝に関するデザインを手掛けます。たとえば「TOKIWA」の発行では、①ときわ園さんと打ち合わせを行い、ヒアリングをする中で「ときわ園の専門的な取り組みが伝わるような広報誌が欲しい」という要望が見えてきましたので「プロフェッショナルな現場を見せる」をコンセプトに構成を考え、②ラフデザイン（誌面構成をビジュアル化したもの）を作り、プレゼンをしてデザインを決定し、③実際原稿や掲載する写真をレイアウトしてデザインを完成させ、④内容の校正や印刷会社との色校正などのやりとりを経て「TOKIWA」が完成しました。このように、パソコンを使ったデザイン作業だけでなく、コミュニケーションスキルや情報収集能力、プレゼン力などが重要になる仕事です。

### — どのようなきっかけで今のお仕事をするようになったのでしょうか？

グラフィックデザイナーはアーティストとは違い、クライアントの課題解決が仕事の目標であり、論理性が大切だと知り面白そうだと思っていたところに、友人の伝手で知り合ったNew York在住のグラフィックデザイナーの仕事に

感動し、すでに社会人でしたが思い切ってNew Yorkの美大に行き、現地の広告代理店でこの仕事を始めました。

### — これまでどのような苦労がありましたか？

たとえば、New Yorkの広告代理店に勤めていた時などは、夜の11時にミーティングがあり、ボスのひらめきで、私たちのチームが2週間かけて作ってきたものを全てひっくり返され、翌朝10時のクライアントへのプレゼンに間に合わせるために徹夜で作り直す、といったサバイバルなこともありました。この仕事は時間制限がある中でより良いアイデアを生み出す産みの苦しみが付きものです。

### — どのような時にこの仕事をしていてよかったと思われますか？

お客様に喜んでもらった時でしょうか。想像を超えるものができたと満足してもらえると達成感があります。自分が携わった作品が商品や広告として世の中に出たり、賞を頂いたりすると励みになります。

### — 今後どんなことに取り組んでいきたいと思っておられるか、抱負をお聞かせください。

InstagramなどSNSで自分のデザインを見せていきたいと思っています。今までの経験を生かしてデザインを人に教



デザイン・プレス 向井 孝子様

えることもしてみたいと思っています。

### — ときわ園にはどのような魅力があるか、今後どんなことを期待するか、教えてください。

私たちは生活の様々な情報の8割以上を視覚から得ていて、特に色には心理的効果があり、人の感情を動かす力があります。中でも緑という色は、気持ちを落ち着かせ、緊張をほぐし、ストレスを軽減し、リラックス効果があり、目の健康にも良いことが医学的に立証されています。さらに生産性の向上効果もあるため、世界をリードする企業はこぞってオフィス緑化に取り組んでいるほどです。緑豊かなときわ園は、まさに働く人にも優しい素晴らしい環境です。他の施設にはないこのような大きなアドバンテージを活用して、ますます魅力的な施設として輝いて欲しいと願います。

向井様、この度はインタビューに応じてくださりありがとうございました。

## AIと介護

パンデミックが収まり、ようやく落ち着いたを取り戻してきたところですが、世界各地で戦争が続いていて、心を痛めながら2024年を迎えることになりました。一日も早く平穏な状況に戻ることを願うばかりです。

2023年は生成AIが良くも悪くも話題になりました。AIとは、アーティフィシャル・インテリジェンス (Artificial Intelligence)の略で、日本語では主に「人工知能」と訳されます。AIは急速に私たちの生活に身近なものとなってきました。

介護業界でもAIやロボットに注目が集まっています。業務の効率化を図って慢性的な人材不足を補うことにより、職員の負担を軽減させたり、安全性やサービスの質を向上させたりすることなどが期待されています。例えば、職員が部屋を訪ねる回数を減らし、夜勤のストレスを軽減するた

めの見守りロボットやプライバシーに配慮したセンサーカメラなどが開発されています。しかし、AIやロボットを導入したからといって少ない人員で介護業務を行うことは難しいという意見もあります。また、人間は知能だけでなく、感情や心を持っているので、介護にAIやロボットを導入することには抵抗を感じるという人もいます。これまでの介護の歴史を考えると、そうした気持ちを抱くのも無理もないことだと思います。私自身もAIやロボットに対する理解がまだ追いついていないと感じています。

AIやロボットも上手に活用するならば、とても有用な道具になり得ると思います。しかし、どんなに便利な道具でも生成AIの例が示すように、使い方を誤ると問題が生じることもあるので、正しい理解と知識を持ち、適切に使用することが大切です。せつか

ちな人は必ず貧乏へと向かうという言葉もありますが、単に便利そうだというだけで性急に導入すると、十分活用できず、無駄な高い買い物をするだけに終わってしまう危険があります。本当に自分の職場にとって有用かどうか時間をかけて調査、検討することが肝要だと思います。AIやロボット技術が介護業界の未来を明るくしてくれることを期待したいものです。今後もAIは研究に値するテーマだと感じています。



## 日本の感想

私にとって外国に来るのは日本が初めてです。日本の第一印象は、アニメ、特にドラえもんです。もっとも、ドラえもんが日本で生まれたアニメであることや、日本はアニメで有名であることを最初は知りませんでした。

インドで私が自分で日本語を勉強し始めたのは大学時代でしたが、どのように日本語を勉強すればよいのかよく分からない状況でした。大学卒業後、もう一度日本語の勉強に挑戦し、特別養護老人ホームときわ園の面接に臨みましたが、その際の印象は、ときわ園は実に素晴らしいというものでした。

本館1階介護職員  
ベンカティサン スバラクシュミ



なって勉強してまいります。

※日本語を母語としない人の日本語能力を認定する語学検定試験。N1からN5まであり、N1が最も高いレベル。



ご利用者と歓談するスバラクシュミ職員

NYで参画したビルボードデザイン(タイムズスクエア)



ブックカバーデザイン



## デイサービスの活動

季節はすっかり冬に移り風が冷たくなってきましたが、天候の良い日には園庭の散策で日光浴や四季の草花を楽しみ、フロアでは日替わりのレクリエーションや塗り絵、工作を楽しんでいただいております。

2024年は『辰年』ということで、皆様で作成した装飾品も大迫力です。これからも私たちと共に穏やかに充実した時間を過ごしましょう！



冬の実り



園庭で花摘みを



毎朝のラジオ体操



魚釣りレクリエーション



レッグプレスでの下肢筋力訓練



バランス訓練



屋外歩行で最高の笑顔



良く晴れた午後の日光浴



敬老日のお祝い



良い笑顔



一球入魂！



オセロで真剣勝負



低い座面からの起立動作訓練



手すりを使用した移乗動作訓練



壁を使用した平行移動訓練



綺麗な紅葉



紅葉を楽しみ



晴空のもと外気浴



器用な手先で塗り絵を



可愛い辰が出来ました



自信作！



よく狙って…



集中して棒倒しゲームを



青空の下園庭を散策

## デイサービスセンターこもれびの魅力

こもれび介護職員  
松尾 智子



今回は皆様にデイサービスセンター「こもれび」の魅力についてご紹介します。

フロアでは季節感を味わって頂きたく四季ごとに装飾品を変えております。天井や壁にはご利用者と一緒に制作した作品を飾り、中でも園内には大きなどんぐりの木があり、秋には歩行訓練時にご利用者が拾い、画用紙に「こもれび」と書いた文字の上に一つずつボンドで付けてとても素敵に仕上がりました。

そして、毎年、干支の飾り作成をご利用者が下絵し、絵に沿って色ごとに紙をハサミで切ったり折り紙を折ったり、ご

利用者同士「ここはこの色よね」と話し合いながら制作され、指先のリハビリも兼ねて行なっています。令和6年は辰年、どのような作品が出来るか楽しみです。

月1回程ですが、施設長が宇宙の話を行なっています。皆様は熱心に耳を傾け疑問に思われたこと「宇宙でのトイレはどうするのか」「食事はどの様に食べるのか」など、関心を持たれています。中には、「今度はいつ宇宙の話が聞けるのかな?」と心待ちにされているご利用者もいらっしゃいます。

他にも、イベント食として郷土料理や工

作レク、アレンジ湯等も行なっております。皆様、ぜひ、こもれびにお越し下さい。



リハビリを兼ねての干支の作成



施設長による宇宙の話

## ときわ園に欠かせない洗濯業務

業務サポート部門  
洗濯スタッフ  
清家 久



私たちの仕事は、主にご利用者の衣類・タオル類を洗濯・乾燥し、畳むことです。本館の地下1階に洗濯室があり、業務用の洗濯機と乾燥機が1台ずつ備えられています。平日は毎日入浴があるので、たくさんの洗濯物が回ってきます。ご利用者ごとにネットに入れて、混ざらないように注意しながら作業しています。そして、本館のご利用者の分は各居室の床頭台の中へ、新館のご利用者の分は各フロアへ戻しています。

本館の地下には、機能回復訓練室、一般浴室、倉庫もありますが、現在、

一般浴室が使われていないため、人の出入りはあまりありません。私たちは清潔な所で気持ちよく仕事をするために、また火災などの危険を防ぐために、空いている時間は本館地下を中心に掃除し整理整頓に努めています。

また、明るい挨拶やちょっとした声掛けを心がけ、ご利用者に喜んでいただきたいと思っています。そのようにして、ご利用

者がときわ園で穏やかに幸せな日々を過ごしていただくためにお役に立てたら嬉しいです。



ご利用者ごとに洗濯物を畳む



本館地下洗濯室

## ときわ園のBCP対策 ～BOSS導入の取り組みを発表～

BCP（事業継続計画）とは、自然災害や感染症などの緊急事態が発生した場合に、重要な事業を継続し、可能な限り早く復旧させるための方法や体制を示したものです。介護施設や介護事業所においても、2024年4月よりBCP作成が義務付けられ、既に多くの介護施設や介護事業所が取り組んでおり、介護施設や介護事業所向けのBCPのセミナーも数多く行われています。ときわ園もBCP対策にいち早く取り組み、これまでも本誌やホームページにてご紹介してきましたように、「BOSS」というシステムを導入しています。

「BOSS」とは、東京大学生産技術研究所 附属災害対策トレーニングセンターで研究・開発されているシステムであり、災害時に生じる様々な業務を整理・標準化し、フローチャートのような形でシステム化したものです。「BOSS」は主に行政（都道府県や市町村）向けのシステムですが、社会福祉法人として初めて2021年に試験的に導入され、東京大学生産技術研究所と共同で運用に取り組んできました。その取り組みについて、最近でも発表する機会がありましたのでご紹介いたします。



東京大学生産技術研究所

### ●第58回 関東ブロック老人福祉施設研究総会（Gメッセ群馬）

9月13日から14日にかけて、群馬県高崎市にあるGメッセ群馬にて、通称「関ブロ」が開催されました。ときわ園は、2日目の第2分科会【経営】にて、8つの施設のうちのひとつとして発表させていただきました。主題は「マニュアル電子化による情報共有効率化」で、ときわ園では既に地震や風水害について「BOSS」でBCPを作成していましたが、感染症も一つの災害ととらえ「BOSS」に組み込むことで感染症対策の“見える化”を図ってきたことについて発表しました。他の施設の発表にも防災に関するものや、物価高騰の中でのコスト削減の取り組みに関するものがあり、有意義な情報交換の機会にもなりました。

### ●「高齢者福祉施設の災害対応 標準業務フローを考えるシンポジウム」（東大駒場キャンパス）

9月28日に、東京大学生産技術研究所（東大駒場キャンパス）にて、高齢者福祉施設従事者・高齢者



東大シンポジウムの様子

業務サポート部門  
リーダー  
田村 知之



福祉施設での防災に興味がある方を対象にシンポジウムがzoom併用で開催されました。その中で、ときわ園の災害への取り組みについて発表させていただきました。2019年に2つの台風により数日間にわたる停電や周辺地域の冠水などの経験を経て、「BOSS」の導入を開始したことや、現在の防災への取り組みについて発表しました。その後、ワークショップを行い、ときわ園の「BOSS」を参加者にも実際に操作してもらい、具体的な意見や提案をいただきました。

ときわ園で防災対策に関わる一人として、ときわ園がご利用者にとっても職員にとっても安心して過ごせる場所であり続けられるよう、防災の備えの強化に取り組んでいきます。今後もBCP対策の有用なツールとしての「BOSS」を職員にも周知し、実際に使えるように研修を計画していきます。

## ときわ園の今をホームページ・SNSより ご覧ください～ホームページ委員会より～

先日父より、昭和20年代頃に冷蔵庫を家庭で使うようになった話と、その他の家電の思い出話を聞きました。様々な家電や通信機器の形態や機能は変化し続けていますが、1990年代（平成以降）、私にとって画期的な出来事のひとつは携帯電話が利用できる様になった事でした。その後インターネット接続サービスが始まり、一般の人でもパソコンやスマートフォンからのweb閲覧が可能になりました。インターネットを使用し検索すると、案内情報に辿り着き、遠方の様子も直ぐに見聞きできる様になりました。技術が進み

webページも更に見やすくなり、大変便利になったと思います。

時の流れの中で、ときわ園の広報誌は令和元年秋より年に4回の季刊誌となり、発行回数は減りましたが、その分、日頃のご案内や情報をホームページやSNSを通して発信しています。ホームページ委員会メンバーは、今が旬の情報をお届けし、「ご利用者の皆さまが、ときわ園でどの様に過ごされているかをご覧いただきたい。」と願いながら投稿を行っています。そんな思いの詰まった、ときわ園の今をホームページ・SNSよりご覧ください。

事務員  
篠原 綾乃



ホームページアドレス(URL)  
<https://www.tokiwa-en.or.jp>



公式ホームページ



X(旧ツイッター)



インスタグラム



フェイスブック

## 宇宙無人建設革新技術開発

月面基地を建設する計画が各国で企画されています。日本においても同様の構想が練られています。現在、国土交通省が主体となり進められている「宇宙無人建設革新技術開発」というプロジェクトがあります。

人間が月面で工事を行うとなると、かなりの危険と費用が必要とされますが、そのために検討されているのが建設機械の遠隔操作技術です。JAXA、大学、大手ゼネコン、各種企業等の協力を受つつこのような研究開発がすでにスタートしています。すでに地上においてリモートによる建設機械操作の実験も実施されています。今後、この技術がどう発展していくか見守りたいものです。

日本の介護施設の人手不足は非常に深刻な問題となっています。その解決策の一つは介護ロボットの活用です。とはいえ、何もかも介護すべてを行えるロボットは未だに存在していません。研究機関や企業な

どが今後も技術革新に努めてもらい、ご利用者にも職員にも安心して暮らせるような環境が出来上がることを希望しています。同時に、ときわ園もこの点で常に先進的でありたいと思っています。

施設長  
酒井 章年



(出典：国土交通省ウェブサイト[https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08\\_hh\\_000959.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000959.html))

# 活動ログ

10/6

## 帝京平成大学キャリアプラン講義

毎年、帝京平成大学より『介護等体験』の実習で学生が当法人に来園されていますが、今年はキャリアプランに関する講義にお招きをいただきました。介護福祉の分野ではどのような理念がありどういった業務を行っているのか、施設長と介護職長からの講義をさせていただきました。また帝京平成大学を

卒業した当施設の機能訓練指導員から卒業後の進路の例として機能訓練指導員としての業務内容や機能訓練室内での実際の訓練の様子などの講義をさせていただきました。



11/8

## 電気設備問題なし

現代文明において電気はなくてはならないもの。特別養護老人ホームときわ園においても電気はなくてはならないもの。ということで、11月8日に電気設備の年次点検が行われました。法令で1年に1度実施することになっている点検です。およそ1時間にわたる停電の間、電気設備の点検および整備が行われました。何分、6,600ボルトの高圧電気を受電している設備だけに危険の伴う点検

です。点検の結果、異常なし。もっとも、本館は築40年を迎えており、今後も必要な改修工事をしていく必要はあるでしょう。ご利用者への充実したサービスを提供していくためになくはない電気設備を守っていきます。



11/19

## 晴天の下、爽やかなこもれびの庭を散策♪

この日は、晴天に大をつけて大晴天と呼びたくなる青空が広がっていて、午前中はこもれびの庭を特別養護老人ホームのご利用者と職員が、朗らかにお話ししながら散策していました。道を進んでいると、近くの茂みから小緞鶏(コジュケイ)の鳴き声が聞こえてきます。赤みがかかったマリーゴールドが、勢い良く咲いていますので、お花の近くで写真を撮りました。今年は残

暑が長く続きましたので、秋が短く感じます。大切な秋晴れを大切にしたいと思う一日でした。



## 編集後記

12月最初の時点ではコロナ感染症は下火の状態です。11月12日にはご入居者へのコロナワクチン接種が終了し、皆様ひと段落しているところ中です。こうした中で、11月27日から面会条件を緩和したところ中です。これまで、面会の機会がごく限られていましたが、少しでも多くご利用者との面会の機会を活用していただければと思っています。ただ、油断は禁物、インフルエンザは猛威を振るっていますし、ノロウイルス感染症の危険もあります。これまでと変わらず感染症対策をしっかりと実施して参ります。今後も感染症対策にご協力いただければ幸いです。

